

十一月十日(木)午後七時。体育館二階アリーナには、地域の皆さんが集まり始め、賑わいを見せています。そのアリーナの片隅で、円陣を組んでいる高校生たちの姿がありました。彼女たちは周囲に遠慮するように小さな声で、それでもしっかりと気合を入れてこう言ったのです。「今日のズンバは、私たちが盛り上げます！行くぞー」「オー！」

コミュニティ・スクール通信第二弾は、『地域と楽しくつながろう ZUMBA』編です。生徒や地域の方の声をお届けします。

『地域と楽しくつながろう ZUMBA プロジェクト』の成り立ち

このプロジェクトが立ち上がったのは令和元年度末のことです。職員会議では以前から『コミュニティ・スクール』について何度も説明がありました。これから、小・中・高、すべての学校が地域に開かれた学校となり、地域と繋がり、地域と協働し、地域に貢献できる学校となることを目的とした『コミュニティ・スクール』に取り組んで行くこと。そして、その日の職員会議では、その一つとしてみんなで楽しく踊る『ZUMBA』を取り入れたプロジェクトを始めることが議題に上がりました。まずは『ZUMBA』ってどういうものなのだろう？という先生方のために、大きなテレビでズンバの映像も流れました。ラテンのリズムに合わせてみんな同じ動きをしながら笑っているその映像を見ているうちに、思わずリジ先生が立ち上がった踊りだしていたことを懐かしく思い出します。当時、隣の席に座っていた先生が、焼津市でやっていた ZUMBA の講座に出てやったことがあるよ。シェイプアップの効果が高いらしくて、産後のママたちにも人気の講座だったよ。」と教えてくれました。何と！一時間で一〇〇kcalも消費すると聞き、楽しくできて、

『ZUMBA』の日は、朝から胸の高鳴りが止まらないんです！ワクワクします！

七月に実施したコミュニティ・スクールのアンケートで、先生方から「ズンバに部活動単位で半強制的に出席させるのはやめてあげて欲しい」という意見がありました。生徒のアンケートでも、参加のきっかけを問う質問で「部活動で参加したから」という回答もありました。元は、部活動単位での参加をお願いしたのは、地域の人が少なかったら寂しいということも大きな理由でしたが、不参加の理由に「部活動で時間が取れない」という回答も多く、部のみんなで出ることになれば参加しやすいのではないかという思いもありました。また今年度第一回目の五月の時には、ZUMBAに参加してみたいけど自分から参加するのは勇気がいるのか、照れたような表情を浮かべた生徒たちが大勢入り口で制服姿のままずっと ZUMBA を眺めている姿があり、参加のきっかけが欲しいのでは？とおせっかいながら考えました。

ありがたいことに、部活動での参加がきっかけで、自ら参加してくれる生徒が増え、毎回四十名近くの生徒が参加しています。ステージに上がって盛り上げてくれるサッカー部の皆さんや、何もお願いしなくても自ら受付を担当してくれている二年生、受験勉強の合間のリフレッシュを兼ねて皆出席している三年生、すっかりアイドルとなっている〇先生の娘さんと遊びながら踊るのが楽しみな生徒、卒業生もいます。そんな生徒たちにこのプロジェクトの魅力を聞いてみました。「ZUMBAがある日は、朝から胸の高鳴りが止まらないんです。普段は関わることのない地域の人たちと、みんな一緒にウエイウエ



生徒にも大人気のいつも元気でポジティブなマリアン先生の秘訣とは？

いつも元気なマリアン先生は生徒にも大人気の学校運営協議会委員も務めてくださっています。授業参観の時には、目が合うと思わず手を振る生徒も。そんなマリアン先生も落ち込んだり、イライラしたりすることもあるのかな？と質問してみました。「落ち込むことはあんまり無いかなあ。この曲はみんな好きかな？喜ぶかな？ってみんなのことを考えていると、嫌なことは全部どこかに飛んで行っちゃいますね。」とキラキラの笑顔で教えてくれました。マリアン先生の元気の秘訣は、相手を大切に思う気持ち。マリアン先生は、いつもみんなに「ありがとう」と言います。相手を大切に思うから、感謝の気持ちも生まれ、明るく元気になる。とても大切なことを教えて頂きました。

『若い皆さんと同じ場所で活動をする。それだけで気持ちが明るくなるんです。』

プロジェクトに参加して下さる地域の方には、近所のガゼルの森の先生や、「回覧板を見ました！」と言って来て下さる方もいます。今年からはPTA評議員の皆さんも参加して下さっています。その中で、地域の方が私に声を掛けてくれました。「毎回、ここに来て若い皆さんと同じ場所で活動をするでしょう。全然、体はついていかなけれど、心は元気でいっぱいになりますよ。若い皆さんからパワーをもらえるんです。若い皆さんと同じ場所でも活動をする。それだけで気持ちが明るくなるんです。」

プロジェクトに参加して下さる地域の方には、近所のガゼルの森の先生や、「回覧板を見ました！」と言って来て下さる方もいます。今年からはPTA評議員の皆さんも参加して下さっています。その中で、地域の方が私に声を掛けてくれました。「毎回、ここに来て若い皆さんと同じ場所で活動をするでしょう。全然、体はついていかなけれど、心は元気でいっぱいになりますよ。若い皆さんからパワーをもらえるんです。若い皆さんと同じ場所でも活動をする。それだけで気持ちが明るくなるんです。」



「自分には合わない」「忙しくて参加する余裕が無い」「働き方改革に反している」「負担が大きい」という先生方の声には、担当者として真摯に向き合い、より良い運営について、責任を持って考えていかなければいけないと感じています。でもその前にまず、生徒や地域の方が喜んでくれている『コミュニティ・スクール』を私も一緒に楽しんでいきます♡

お忙しいのは承知ですが、一緒にいかがですか？